

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：18001

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K15189

研究課題名（和文）沖縄米国統治期における建築先進技術の導入

研究課題名（英文）Introduction of advanced architectural technology during the U.S. military government period in Okinawa

研究代表者

金城 春野 (KINJO, Haruno)

琉球大学・工学部・助教

研究者番号：90739624

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000 円

研究成果の概要（和文）：本課題は、戦後沖縄米国統治期の27年間（1945-1972年）における先進建築技術の導入と地域社会への定着過程について明らかにすることを目的とした。研究の結果、米国統治期の特異な状況下で計画が進行した①琉球政府立博物館と②琉球銀行本店について、成果を発表することができた。①琉球政府立博物館については、戦後沖縄における地域主義的建築の発生過程の一端を明らかにすることができた。②琉球銀行本店については、米軍占領期の沖縄に先進技術が導入されていった過程を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本土復帰以前からの建設業関係者らは、高齢で既に他界した者が多く、直接証言を聴取することは困難となりつつあるが、今だからこそ分かることも多くあるのではないだろうか。本課題では、米国国立公文書館などの公開文書を利用して実態の把握が可能となった建築物（①琉球政府立博物館）や、民間建築物で解体されることが決定したことにより、図面や施設の現況の公開に応じてもらえる事例（②琉球銀行本店）を研究対象として成果を発表することができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the introduction of advanced architectural technology and its establishment in the local community during the 27-year the U.S. military government period (1945-1972) at the postwar Okinawa. As a result of this study, it became clear that ① The GRI Museum (GRI: Government of the Ryukyu Islands) and ② The Bank of the Ryukyus head office. Both architectures were planned under the unique circumstances of this period. Regarding ①, it was clarified part of the process by which regionalism architecture was born in postwar Okinawa. Through ②, it was clarified the process by which advanced technology was introduced to Okinawa during this period.

研究分野：建築史、建築意匠

キーワード：沖縄 戦後 占領 先進技術 地域主義 アイデンティティ 近代建築 プレストレストコンクリート

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

これまで、戦後沖縄の代表的な建築物であっても、終戦後の混乱状態にあり十分な記録がなされていなかったり、米軍政府が主体となって建設したため資料収集が困難であったりという理由で研究対象とされてこなかった建築物が複数ある。しかし、米国国立公文書館などにて米軍政府の資料が得られるようになり、近年になって手掛かりが見出せるようになった建築物もある。

実際、筆者は、終戦直後の 1945 年 11 月に設計された規格住宅と呼ばれるプレハブ式応急住宅に関する公文書と図面を米軍政府資料の中から入手し、研究成果を発表してきた。終戦直後の当住宅の建設状況の把握については、資料収集が困難とされており、特に、地元行政機関の記録は台風被害で散逸したことが分かっていた。しかし、沖縄県公文書館が米国国立公文書館より収集した資料には、規格住宅に関する多数の米軍政府指令書が残っていた。また、その中には、詳細図面も含まれており、実態の解明に重要な役割を果たした。

確かに、復帰以前からの建設業関係者は、高齢で既に他界した者が多く、直接証言を聞くことは困難となりつつあるが、その一方では、公開された米軍政府公文書などを基礎資料として研究を発展させる可能性は広がっていると期待できる。

戦後米軍工事では、米国製の重機や資材が一遍に輸入された。また、戦前の建設業者のほとんどは建設実施部隊である構作隊に採用され軍工事に従事した。地元技術者らの先進技術の習得は、現場での実践の中で行われた。これは、終戦直後の社会状況の中では、技術者不足が深刻な問題であり、こうした状況下での建設工事のあり方を表しているといえる。すなわち、途上国の開発工事や被災地などの復興工事に通ずる側面がある。

2. 研究の目的

本研究は、戦後沖縄米国統治期の 27 年間（1945-1972 年）における先進建築技術の導入と地域社会への定着過程について明らかにすることを目的とした。対象とした先進技術は、米軍工事によって輸入された材料、施工、設計などである。

本課題では、米国統治期の特異な状況下で計画が進行した二つの建築物を主な対象として研究を進めた。① 琉球政府立博物館と ② 琉球銀行本店である。

① 琉球政府立博物館（1966 年竣工、現存しない）

本土復帰前の沖縄で建設された琉球政府立博物館（後に沖縄県立博物館と改名）は、フラットスラブの近代的な建築物であったが、計画過程では指名設計競技で首里城正殿を模した案が選出された。本研究は、琉球政府立博物館の建替え計画における設計変更の経緯を整理し、博物館建設に対する関係者らの計画意図を俯瞰的に検証することで、戦後沖縄における地域主義的建築の発生過程の一端を明らかにすることを目的とした。



写真 1 琉球政府立博物館

② 琉球銀行本店（1966 年竣工、2024 年現在建替え工事中）

琉球銀行本店は、沖縄初のプレストレストコンクリートスラブや最新設備など米国仕様の先進技術が導入された建築物である。民間建築物としては珍しく、米国陸軍沖縄地区工兵隊（以下、DE）の監理の下に米国の建築設計事務所によって設計され、地元建設会社により施工された。本研究は、琉球銀行本店の計画背景、設計内容、建設状況について詳細を把握し、米軍占領期の沖縄に先進技術が導入されていた過程を明らかにすることを目的とした。



写真 2 琉球銀行本店

3. 研究の方法

研究方法は、文献調査と図面による考察を主とし、関係者への聞き取りにより補完した。文献は、当時の関係者らの経験談などが掲載された出版物、一般新聞、建設新聞、地元建設団体の機関誌、行政の記念誌などから情報を収集した。また、米軍政府側の資料は、沖縄県公文書館が米国国立公文書館などで収集した米国収集資料に含まれている、公文書、個人が寄贈した資料などを調査した。更に、当時の状況を把握するため、各種写真集、公文書館や史料館などのアーカイブから当時の状況を記録した写真を収集した。

4. 研究成果

本課題では、米国統治期の特異な状況下で計画が進行した二つの建築物を主な対象として研究を進めてきた。① 琉球政府立博物館と ② 琉球銀行本店である。また、最終年度には、③『残存建物調査書』に関する研究に着手し、資料整理を行なった。以下に、その成果をまとめる。

① 琉球政府立博物館

琉球政府立博物館の計画過程で作成された案は、第一の案、第二の案、第三の案の三つに大別できる。第一の案は、1962年に博物館館長らが自ら作成した案であり、第二の案は、1964年に指名設計競技で選出された案、第三の案は、1965年に選出案撤回後に再設計された実施案である。本研究では、設計変更が繰り返されたのは、博物館建設に対する統治下にある地元側と統治者である米側の間に生じていた計画意図の相違が要因であったと考えた。

研究の結果、琉球政府立博物館の計画過程においては、(a) 統治者であるキャラウェイ、(b) 歴史学者のカー、(c) 地元博物館関係者である文教局、の主な三者に異なる計画意図がある中計画が進行したことが設計変更の要因となっていた。その計画意図は次のように要約できる。

- (a) 民族意識を高め、日本との分離を期待した文化政策の一つ
- (b) 永続的な文化財保護活動を可能とする機能的な拠点
- (c) 首里城正殿の姿を再現した琉球の歴史文化の象徴

これらは、占領下という特殊な状況と設計変更が繰り返されたことによって表面化した。琉球政府立博物館の設計変更過程からは、(a) 政策、(b) 機能性、(c) 文化の象徴、の異なる計画意図の帰結として、戦後沖縄のモダニズム建築の導入期から地域の建築的アイデンティティの捉え方に対して、彩色や要素、造形などの多様な視点が生み出された側面を捉えることができよう。

② 琉球銀行本店

琉球銀行本店は、2021年1月に解体されるまで、構造体や設備の一部などが当時のままに現役使用されていた。銀行が営業中であり、さらに、DEが設計と施工を監理したため、図面確認や現地調査が困難という理由により、これまで研究がなされてこなかった。しかし、建替え計画による解体が決定したことで、建築物の図面を入手し、現地調査をする機会が得られた。

研究の結果、琉球銀行本店は、設計内容（意匠、構造、設備）に米国仕様が顕著に表れた占領期を象徴する建築物であり、沖縄のコンクリート建築文化の中でも特異な存在として位置付けられることが分かった。

また、琉球銀行本店は、(a) 米国民政府の政策の一環として計画が進められ、(b) ポストテンション式プレストレストコンクリートスラブやプレキャストウォールパネルなどの先進建設技術、書類気送管設備やドライブスルー型窓口など米国仕様の最新設備が導入された。一方、(c) 施工は、国際入札を経て地元建設会社が竣工させており、地元技術者らが先進技術を修得していた一つの過程を把握することができた。

③ 『残存建物調査書』

戦後沖縄の建築は、米軍工事によって RC 造（鉄筋コンクリート構造）が急速に普及したと周知されているが、占領初期に残存建物が再利用されていたことはあまり知られていない。琉球列島米国民政府は、占領初期に戦火を免れた建築物を調査し、政府・行政機関の施設として再利用するために『那覇市真和志村所在残存建物調査書（一九五〇年五月初旬調）』（以下、『残存建物調査書』）を作成した。沖縄では、第二次世界大戦により多くの建築物が失われ、さらに、わずかに残った建築物のほとんどが本土復帰後に建て替えられた。そのため、『残存建物調査書』は、戦前期の沖縄の建築物について知ることができる数少ない手がかりといえる。本研究では、『残存建物調査書』について整理し、リストを作成した上で、各「No.」別に概要をまとめた。

その結果、1施設（分棟や付属建物なども含める）を1項目のデータとして、91施設の残存建物をリストにまとめた。91施設の中には、学校校舎を政府庁舎に、また、民間施設を行政機関の施設に再利用した事例があった。さらに、隣接した中小規模の複数施設を群として活用する事例も見られた。

【図版】写真 1、2：琉球列島米国民政府：守礼の光、沖縄返還特別号、p. 18、p. 46、1972

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 KINJO Haruno, IRIE Toru, OGURA Nobuyuki	4. 巻 87
2. 論文標題 THE PROCESS OF DESIGN CHANGES OF THE GRI MUSEUM	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ)	6. 最初と最後の頁 1040～1049
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aija.87.1040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 金城春野
2. 発表標題 米国統治期沖縄の残存建物の再利用について その1
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金城春野、入江徹
2. 発表標題 復帰前沖縄の博物館指名設計競技をめぐる議論について
3. 学会等名 日本建築学会大会学術講演
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金城春野
2. 発表標題 琉球銀行本店の建設経緯について その2
3. 学会等名 日本建築学会九州支部研究報告
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金城春野、入江徹
2. 発表標題 琉球銀行本店の建設経緯について その1
3. 学会等名 日本建築学会九州支部
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 米山真皓、金城春野
2. 発表標題 米国統治期沖縄の残存建物の再利用について その2 残存建物リストの作成
3. 学会等名 日本建築学会九州支部
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

—

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------